

散在するため池の保全活動をネットワーク化し保全の重要性を発信

13. いなみの台地【兵庫県加古川市ほか】

範 囲	「いなみ野」とは、印南野台地(稲美町を中心として、おおそ明石市と播磨町、加古川市の加古川左岸)と旧印南郡(おおそ高砂市、加古川市の加古川右岸)を含めた広い範囲。	
所 在 地	兵庫県加古川市・明石市・稲美市・高砂市・播磨町 (東播磨地域とも呼ばれる)	
生 物 地 理 区 分	アカマツ林	
環 境 要 素	ため池()、二次林、水田、畑、小川・水路、池沼・湿地、人工林	
自然条件	地 形	加古川の下流とその支流の美嚢川、明石川と播磨灘に囲まれた地域の大部分を占める、いなみの(印南野)とよばれる広大な洪積台地。瀬戸内式気候の影響から、降水量が少なく水に乏しい地域。
	植 生・生物等	東播磨地域には、ため池・水路など生物の生存にとって不可欠な水が豊富にあり、多様な生き物が生息するエコトーン(生態推移帯)が形成されている。ため池群は独特の自然景観を形成しているだけでなく、多様な動植物の生息空間としても貴重であり、レッドリスト掲載種以外の特徴的な動植物も多数生息している。
社会条件	人口(市町村)	266,889人(農家率4.0%、副業的兼業農家が多い) 加古川市のデータ(H22年)
	土 地 利 用	市総面積の18.0%が田畑、23.5%が山林である。 加古川市のデータ(H22年) 古くから水に悩まされていたため、水を得るための技術が発達し、ため池やそれを結ぶ水路等が整備されてきた。現在でも約600のため池が残されている。
	歴 史・文 化	「いなみ野台地」は、周りを海や川に囲まれているものの、水に恵まれない自然状況であり、先人たちはため池などで農業用水を確保し、農村社会を営んできた。ため池群や水路網は、農業水利施設としての機能に加え、人々との関わりのなかで、周囲の風景にとけ込み、地域独特の景観を形成してきた。人々は、長い歴史のなかでいなみ野の自然との共生を図り、天満大池の満水祈願信仰をはじめ、ため池にまつわる祭事や伝統行事を育み、当地域ならではの固有の「ため池文化」を培ってきた。今もなお、生活様式や生活習慣などさまざまな側面において、その痕跡を色濃く残している。
法指定、行政による評価の状況	自然環境・景観保全や国土保全に関わる地域指定等	該当なし
	すぐれた自然、景観、伝統文化などとしての選定	文化庁「文化的景観180ヵ所」 地球環境関西フォーラム「関西自然に親しむ風景100選」 農林水産省「ため池百選」、「疏水百選」



撮影時期：
印南野台地(関西自然に親しむ風景100選HPより)

いなみの台地					
取組主体	タイプ		連携組織：多様な主体の連携組織による取組		
	主 な 主 体	名 称		概 要	
		いなみ野ため池ミュージアム運営協議会		多様な主体の参画により、いなみ野ため池ミュージアムが運営されている。(H19年3月設立)	
経 緯		都市化の進行や生活排水の流入、管理の粗放化など、現在のため池や水路を取りまく状況が厳しいなか、ため池の有する多面的機能の十分な発揮と、機能維持に向けた管理活動の展開が強く求められ、当地域においては各般のため池にかかわる構想・計画等が展開されてきた。 ため池や水路を中心に、東播磨の自然・歴史・文化・生活など地域空間そのものの保存・育成・展示を図り、そのことを通じて地域社会全体の発展に寄与していく新たなふるさとづくりとして、「いなみ野ため池ミュージアム」の展開が進められている。			
支 援 措 置		該当なし			
取組の目的・目標		固有の「ため池文化」が豊かに息づく東播磨地域では、農業関係者はもとより、住民・学校・団体・企業・行政など、地域みんなの参画と協働のもと、この先人の“遺産”である水辺空間を、次代の“資産”としてよりすばらしい姿で引き継いでいくとともに、それを核とした魅力溢れる地域づくりを進める『いなみ野ため池ミュージアム』の実現を目指している。			
取組分野内容	農林業を通じた里山や草地の利用(管理)の維持・活性化	ため池管理支援活動の展開			
	バイオマスなど新たな資源としての利用	【対象となる資源】 該当なし			
	環境教育や自然体験、エコツーリズムの場としての利用	自 然 観 察 会	自然観察会、ツバメのねぐら観察会、野鳥観察会ほか		
		環 境 教 育 ・ 学 習 活 動	・人材発掘養成事業(講座“いなみ野ため池学”) ・環境学習会、講習会、講演会、研修会等の実施		
		里地里山体験・環境保全	加古川市志方里山・里池学習会、外来種駆除作業、ホテルも棲める水路整備、ため池クリーンキャンペーン(西島大池他約40地区/年)、かいぼり(池干し)(幡水池他約50地区/年) ほか		
		農 林 業 体 験 活 動	田植祭、芋の植え付け・収穫祭 など		
		エ コ ツ ー リ ズ ム	ため池回廊ツーリズムの推進(ため池の魅力づくり活動事業)		
		そ の 他	・普及啓発イベントの実施(リレーフォーラムの開催、ため池協議会が実施する活動への支援) ・ひょうご水土里のふるさとフォーラム ・流域文化サロン(毎月開催)		
	野生動植物やその生息地の保全・管理	水辺環境の保全・再生プログラムの実施：次世代継承プログラムの実施(水辺環境の保全再生：水質保全、外来種除去)、水辺環境の保全・再生活動実施支援事業(ため池クリーンキャンペーン、稀少動植物保全、いなみ野パールプロジェクトなど)			
	地域の良好な景観の保全・修復	明治以降着工した疏水事業の水利ネットワークや施設群が造りだす風景は、「残すべき文化的景観」に選定されるなど高い評価を受けており、地域でこの景観を構成するため池の保全に取組んでいる。			
	里地里山の伝統的な生活文化の知恵や技術の継承	対 象	生 活 行 事	ため池の草刈り、防災パトロール 【文化財指定】 なし	
			資源利用技術	かいぼりの際に捕獲した小魚の佃煮等	
			そ の 他	非かんがい期の池干しによる水質浄化、ため池の土手焼きによる害虫駆除	
		池干し：物流が容易でなかった時代、池干しで捕獲した魚介類は冬場の貴重な蛋白源として重宝された。現在は、外来種駆除やレクリエーションの要素も含みつつ、地元行事として継承されている。			
連 携 ・ 協 働		ため池協議会：ため池管理者、地域住民、小中高校、学識経験者、周辺企業等からなるため池保全を目的とする組織。 ため池協議会連絡会：各市町毎にため池協議会の連携を図り共通の課題解決に向け取組む組織。			



撮影時期：H22 年 6 月

アサザの里帰り(加古郡稲美町:天満大池ため池協議会)

撮影時期：H22 年 10 月

幡水池かいぼり(加古川市:富木地区環境保全協議会)

景観としての
利用・評価

写真集などの出版物がある
観光パンフレット等に写真が使用されている
風景探勝や撮影の来訪者が多い
自然公園や景観保全のための地域指定がある
景観関連調査(文化的景観等)の対象地となっている

取組の特徴

ため池を拠点とした地域での交流の場を創出、自然環境保全に対する意識醸造につながっている。
明石市・加古川市・稲美市・高砂市・播磨町にまたがって散在するため池の保全活動を「いなみ野ため池ミュージアム」としてネットワーク化し、水辺環境の保全・再生(水質保全、希少動植物保全、外来種除去、ため池回廊ツーリズム推進など)、生物多様性保全推進支援(かいぼり、ジャコ取り、池干しなど)、人材発掘・養成などに取り組む。とくに各ため池協議会における水辺での生物観察会を通じて、野生動植物が身近な存在であり、地域にとってかけがいのないものであることへの認識や、生息空間保全の必要性を強く訴えている。その結果、たとえば希少種であるアサザを保全する天満大池では施設管理者や地域住民、学識経験者等からなるアサザを育む会が組織され、浅瀬や波消し壁の造成を行い、その生育環境を整備し、アサザの保護に努めている。
また、地域住民が散歩やレクリエーションの場として活用するとともに、環境美化への取組を進めるなど、ため池の持つ「多面的機能」についての理解が深まり、関心が高まりつつある。

【参照資料】

いなみ野ため池ミュージアム創設プロジェクト推進基本計画(案)

農林水産省HP

関西自然に親しむ風景 100 選HP(<http://www.global-kansai.or.jp/kansai100sen/>)

いなみ野ため池ミュージアムHP(<http://www.hdrnet.or.jp/html/flame.html>)

水土緑里ネット兵庫HP(<http://www.hdrnet.or.jp/html/flame.html>)